

五団体合同で賀詞交歓会

各界の六百人超が出席

商品先物取引関係三団体及び在京二取引所は一月四日、午前十時半から東京千代田区の東京會館で「平成十四年合同賀詞交歓会」を実施した。当日は行政、業界、学界、マスコミなど関係者が六百人強出席、商品先物業界の新年の門出を祝った。日本経済の先行きに波乱が予想されるだけに、新年の挨拶もそれを予感させるようなものが多かった。

会 交 歓 詞 賀 年 新

所 引 取 品 業 工 東 京 日 本
所 引 取 品 業 農 東 京 日 本
所 引 取 品 業 商 東 京 日 本
所 引 取 品 業 先 物 東 京 日 本
所 引 取 品 業 取 引 所 東 京 日 本
所 引 取 品 業 取 引 所 東 京 日 本
所 引 取 品 業 取 引 所 東 京 日 本



交歓会はまず、主権者を代表して東京穀物商品取引所の森實孝郎理事長が「新しい社会経済情勢に対応、小異を捨てて大同につこう」と挨拶。次いで来賓として農林水産省西藤久三総合食料局長と経済産業省古田肇商務流通審議官が挨拶

鏡開きした。その後、森實理事長、東京工業品取引所中澤忠義理事長、日本商品先物取引協会柴田幹夫副会長、日本商品先物振興協会二家勝明会長、商品取引所託債務補償基金協会藤田庸右理事長の五氏による鏡開きが行われ「よいしょ」という会場中のかけ声の中、酒樽の表蓋が割られた。続いて藤田理事長の音頭で乾杯し、懇談に移り、会場のあちこちで話の花が咲いた。十一時半、東穀協会細金剛生会長の中締めが行われ、十二時には無事、交歓会を終了した。

魅力ある市場づくりを 西藤局長の挨拶



昨年、我が国経済は困難な状況に陥りましたが、その中で商品先物取引は出来高が前年を上回りました。昨年、農林水産省も試練の年でした。その中で、商品先物取引

世界に通用するシステムを 古田審議官の挨拶



昨年は、大豆ミール、原油なども新規上場されるなど活況を呈しました。しかし、まだまだ改革途上であることをきちと認識して先に進む必要があります。新しい五十年、百年の時

記者懇親会、一家会長挨拶

二〇〇一年を振り返ると、二十一世紀早々、内外ともにいろいろのことがありました。商取業界も、多忙な一年でした。主務省は、五月から商品



取引所制度の改善に向けて産構審の商品取引所分科会を開催され、大所高所からいろいろご指摘を下さいました。農水省では、所管5取引所と「商品先物取引ストラテジー会議」を開催され、特に商品先物市場と物流との関係で論議を重ねてこられました。

全商連では、私ども先物協会が提言した制度改善に

「信頼性の向上」で前進

英知を集め難題に取り組む

上に向けて、三月、定款に「信用の保持」を加え、制度政策委員会が諸種検討を重ね、主務省並びに全商連や日商協などと提携しながら、役員職員の移動問題にかかわる対応などを含め、具体的に前進してまいりました。それを受け、制度政策委員会の下部組織の一つである

ダレス化、世界同時不況の中で、国際商品の市場が進みました。五月十日、横浜商品取引所で

懸案の委託者税制については、不十分なながら、その第一歩として二〇〇一年四月一日から、申告分離課税

商品取引所は、国内構造不況の下、商取業界は、ここ九年間に一件の弁済事故もなく、商品取引員の許可更新を迎えたことが挙げられます。ただ、二〇〇四年末の委託手数料の自由化を控え、これからのいろいろな難題に遭遇することも考えられます。